

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/1階 Aユニット)**

事業所番号	2795000245		
法人名	(株)フレンド		
事業所名	グループホームフレンド東大阪		
所在地	大阪府東大阪市小若江4-6-7		
自己評価作成日	令和5年10月12日	評価結果市町村受理日	令和5年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和5年11月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

季節ごとの行事を大切に、目いっぱい力を注いでいます。特に、「夏祭り」は、オープン時より5年継続して開催し、他の家族様達とも 顔を合わせたくさんの参加を毎年頂いています。行事を開催する事で四季を感じて頂ける努力をしているもう一つ自立支援医療を申請する事により阪本病院ふきのとうで行われているディケアに参加させて頂ける様になった事が大きなアピールポイントだと思う

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は法人傘下のフレンドグループとして引継がれ11年、最寄り駅より大学通りを歩いて7~8分、便利な場所に位置し2ユニットで運営している。法人移動で着任した管理者はベテラン職員・新人職員・外国人職員皆が意見を言える環境作りと、会話の機会を設け何時でも話し合っている。職員自ら考え積極的な行動を、利用者のケアを密にと勤務体制の変更・介護記録はアイパットに、夜間の見守りはバイタルセンサーで職員が動きやすい環境を整えている。協力医は近くで毎日看護師が訪問して健康観察し医療面では利用者・家族の安心を得、今までに多数の看取りが行われている。コロナ禍の外出制限が解かれ今後は地域の人や幼稚園児と積極的な交流に努め、又利用者の希望の外出支援をして行きたいとしている。利用者・職員皆が楽しく過ごせる様、職員は毎年スローガン「うまいく 最後まで 危機回避」と干支の「う・さ・ぎ」等楽しく言葉選びをし、コミュニケーションよく穏やかに過ごしている姿がある。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

**【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】**

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念を軸にして個々の理念を作成し取り組んでいる	法人・グループ会社の理念「地域の中で、その人らしく暮らす。地域に密着した尊厳ある生活。その人がその人らしく暮らす。」は玄関入り口やフロアに掲げ、毎年ユニットごとに考えるキャッチフレーズ「うまいく 最期まで危機回避」・「考えよう。それでいいのか その対応」はフロアに、職員1人1人の理念「個々の個性を尊重しそのひとらしい生活を支援します」を入りに掲示して実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の回覧を持参してご挨拶する事から始まり町会の行事にしっかり参加していきたい	自治会に加入し回覧板を受け取り情報を得ているが行事参加には至っていない。地域の人と挨拶を交わし、商店街のお店を利用して交流に努めている。今後は小学校の運動会を見に行ったり保育園児を招待する等利用者と交流する機会を持ちたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の会議に参加して地域との繋がりやグループホームを認知して頂ける機会を増やす努力をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括の方に他のグループホームに情報を提供してもらい、より良いサービスに向けた取組を提案して頂いている	運営推進会議は2か月に1度、地域包括支援センター職員・協力医療機関看護師・利用者・管理者・職員が参加している。現況報告や行事報告をし、情報やアドバイスを貰って運営に活かしている。	地域密着型事業の運営推進会議は自治会長・知見者など広く意見を貰えるよう、会議参加メンバーの工夫をして開催することが求められる。頂いた意見を記載した議事録を作成し、関係者に送付し事業所の入り口など公開されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は実情とれていない協力関係を築いていく努力をする	介護保険課に申請や書類の提出に出向き、福祉事務所に報告や申請・相談などを行っている。消防署に出向き自主訓練の相談や災害時の対応を尋ね資料を貰って参考にしている。保健所から吸引等研修の情報を貰い職員のスキルの向上に役立て、行政との関係作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を実施しスタッフ間での理解の統一に至り当施設において身体拘束をなくす事が出来たが、玄関の施錠についての統一はまだみだである	身体拘束適正化の指針を用意し、年2回研修を実施している。身体拘束適正化委員会を運営推進会議後毎回開催している。職員は議事録で確認して言葉遣い等事例を用いて話し合い、身体拘束しないケアに努めている。玄関は安全上施錠しているが施設内は職員と共に自由に行き来している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で虐待防止についてスタッフ間での理解度の違いを確認する事が出来た。少しずつでも虐待防止の理解を深めるよう努める		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の何人かは、自立支援を利用されていたり、後見人がおられる方がいるためその都度制度についての学ぶ機会を作っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様や御本人様にはしっかり説明と納得を頂き疑問点など気になる事があれば、随時対応させて頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様のご意見、要望をしっかりと聴き対応がスムーズに運ぶ様努力している	家族に毎月手紙や写真を送り利用者の様子を伝えている。電話やスマホのテレビ電話や面会に来られた時に話を聞いている。2か月に1度本社よりアンケートを送り家族の意見を聞く仕組みがある。利用者に寄り添い2人きりで話を聞き、美味しいものが食べたいとの思いに、誕生日に好きな料理を聞きお祝いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常の勤務の中において職員と常に話す機会を持ち、意見をとりまとめ定例会議の場で検討を行い改善、対策を行っている	毎月ユニット会議を開催し主にケアに付いての意見が多く出ている。管理者からは法人の管理者会議の報告がある。管理者とはいつでも話が出来、年2回個人面談の機会があり、個人的なことや目標としていること・スキルアップについて話をし意識向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に管理者、職員よりヒヤリングを実施勤務状況における課題、問題点を把握し適宜整備を行う		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内における教育研修担当者を配置管理者、職員のスキル向上を目指すまた、社員教育支援制度を制定資格取得の支援を行う		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ5施設での交流を行いケーススタディ等の検討会を実施全職員のサービス向上に努める		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時にご本人様の声をしっかり聴いて安心感を持って頂き、特別な絆を感じて安心を届ける関係作りを心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	家族様が感じている事や困っておられる事など傾聴し一緒に痛みや喜びを分かち合える関係作りを目指している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なにが必要か優先順位を相談しながらご本人様や家族様と一緒に見極めサービスを提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の出来る事を見極め生活の中での役割を大切に暮らしを共にする者として喜びや悲しみを分かち合える関係を築く努力をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との関係が支援する者にとっては大切であり御本人との絆が太い物になる様共に支えていくことを重要と考えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の了解のもといついかなる時も拒むことなく面会に来て頂き馴染みの関係の継続に努めている	家族や親戚・近所の方が面会に来てくれている。家族と外食に出かけたりお正月実家に外泊の予定を立てている。家で過ごしていたような趣味や好きなことの支援をし、プランターの花を植えをしている。DVDで昔の映画を見たり歌を歌い懐かしく話をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活を共有する仲間がいる事を理解し関わり、支えあえる関係になる様支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設での契約終了は亡くなる事が全てのため中々関係の継続はないことが多い		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意思を尊重しながらも、グループホームであるが故、困難な時もあり、時として希望に添えない時もある	利用者自らの意見や要望を言いやすいよう、気の合う職員から話を聞き出している。、帰りたい思いの利用者には家族に連絡してお正月家に帰る予定をたてている。利用者が楽しく過ごせる環境づくりを目指し日々思いを聞き、聞いた言葉は申し送りノートに記録して職員間で共有し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のケースについては、入所時にしっかり把握しスタッフと共有しサービスに繋げている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の中での心の変化を把握しご本人の心の状態の様子を観察しプランに生かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループホームでのケアプラン作成はとてつもない計画もなく現状維持が中心で、家族様や本人の希望を入れて作成する事は少ない私達の気づきの中からより良いプランが出る事もある	介護計画は短期目標6か月・長期目標1年としている。計画変更時は医師・看護師・PTの意見を参考にモニタリングを用い管理者・職員・計画作成者で担当者会議を開き介護計画を作成し家族に確認している。利用者の状態に変化があれば関係者に連絡してその人にあつた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に気づきや工夫で得た情報を共有し介護計画に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ディケアの参加が大きく介護計画に変化を与える 家族様の支援のない方も気晴らしにディケアに行くだけで外出した気分を味わう事が出来、たくさんの人達と触れ合う機会を持つ事が出来る		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自立支援医療によるディケアの参加により地域の資源を存分活用させて頂いている グループホーム以上の専門職がサービスに関わって頂く事で利用者様の違った面も発見出来る		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係は、入所と同時になくなるが、往診が軸となり検査や緊急時の対応もしっかり満足して頂いている	入居時に事業所指定の主治医に変更を求めている。内科(精神科・皮膚科・整形科も含む)からの訪問診療がほぼ毎日あり、ユニットごとに2・3人ずつ受診している。歯科(歯科衛生士同行)は週1回の訪問がある。訪問看護師(週1回)の訪問があり点滴、褥瘡、爪切り等健康管理がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも不安や疑問を感じたら、連絡を入れアドバイスを頂いたり、適切な受診を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域連携との情報交換は入院時に欠かさず対応するように心がけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年より看取り介護の連携が出来最後のあり方について早い段階での家族との話し合いで十分な説明と方針を共有しチームで取り組んでいく事になった	入居時に「重度化及び看取り介護に関する指針」のもとに家族に説明を行い同意を得ている。急変時や終末期には再度医師から説明があり、家族と話し合いをし今後の方針を共有している。管理者が中心になって看取りの研修が行なわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルにて職員はどう対処すべきかの判断は、周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対しての対応はしっかり避難訓練等により身に付けているが、地震、水害の対策は避難所はどこか把握している程度のため避難訓練を重ねる事でしっかり身につけたい	法定の年に2回の消防訓練は夜間想定(9月利用者参加)が行われ、3月には消防署が立会い日中想定計画がある。法人によるBCP計画を策定中である。備蓄は水・食糧・ヘルメット・乾パン等をリュックに詰め、利用者の薬情報リストとともに整理して非常時の持ち出し物品としている。	台風や地震時の非常災害時の自主訓練を重ねて行い、職員の8割が5分以内に駆け付けられる近場に位置している。さらに非常時に向けて地域との連携を意図し、地域交流を進めることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりにあった声かけや支援を実施している	年間研修計画のもとに接遇プライバシー研修がある。研修ではスキルアップを目指し職員が講師になりそれぞれのテーマにより事前に資料を集めている。利用者への言葉遣いは”さん”呼び、同性介助を基本としている。重要書類も適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添い本人の声を聴くよう心掛けている 自己決定出来る様、働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の時間や食事の時間など本人の意思とそぐわない時もありそんなときはしっかり理解して頂くよう説明し納得頂く		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めなどされている入居者様には、意思確認をして毛染めのお手伝いを定期的に行わせていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に食事の準備や片付けなど積極的に参加して頂いている	食材は献立付きで業者から配達され、職員が湯せんしている。ご飯とみそ汁は各ユニット毎に手作りしている。イベント時にはお寿司、鍋物、郷土料理、たこ焼きを作り、誕生日にはケーキを手作りしている。利用者はテーブル拭き、洗い物、配膳等で参加している。今後は家族や職員との外食の機会を企画中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が困難な方には起床時の一杯をしっかりと摂取して頂き、一人ひとりに合わせた食事形態や栄養バランスを心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回の口腔ケアや1週間に1回の歯科医、衛生士による口腔ケアも充実している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し介助しているが、年々認知機能低下によりパターンがくずれる	排泄は基本車椅子の利用者にもトイレ誘導をしている。転倒しないように自立歩行の利用者でも付き添い、事故が起きないように支援している。夜間は2時間ごとの見廻りが行なわれ、パットやオムツ交換をしている。夜間のみ自宅から持参したポータブルトイレを利用している人もいる。自立の利用者は4名いて、安眠重視で声掛けをして排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤をなるべく使用せず水分や整腸剤などの服薬により「排便を促す支援をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ディケアにいく為に入浴日が決まってしまう事が多くなり仕方なく都合通りに決定する事がある	入浴は基本週2回の午前中に行われ、一人ひとりお湯の取り換えをしている。浴室は3方向介助で、ボディシャワー機が備えられている。現状嫌がる利用者はいないが、時にはシャワー浴や足浴に切り替え、お風呂上りには保湿剤や着替えを行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のタイミングで就寝される 下肢の冷たい方には足浴をする等、支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬について薬剤師に相談したり、副作用についても理解し症状の変化も常に観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割に合わせた家事や楽しみにしている事などそれぞれに合わせた支援を心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿った外出は難しいがその中でも出来るだけ散歩や外出にお連れするよう努力している	コロナ禍の中で感染リスクを考えて外出は中止となっている。利用者は毎朝のラジオ体操、階段の上り下り等で運動不足の解消をしていたが、最近では公園への散歩や花見が行われ、車によるドライブをし車窓からの景色や花見で季節の変わり目を感じてもらおう支援をしている。	職員は外出に代わるレクリエーションを考えて運動不足の解消、気分転換を図ろうとしている。家族からの要望も多くあり、職員共々が出かけられるよう、外出の機会を増やす工夫を期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本個人の、お金の扱いはして頂く事はなく代行や同行でのお金のやりとりはお願いする事もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	代わりに電話をかけ本人にお話しをしても良かったり 書いた手紙を郵送する支援はしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりも良く、静かな施設でありフロアも広く利用出来る様ソファの配置も工夫して季節感を感じて頂ける様スタッフが空間作りの日々奮闘している	共用空間のリビングでは加湿器付き空気清浄器が置かれ、換気と手すりやテーブルの消毒が時間を決めて行なわれている。ソファ(2人掛け)では傾眠や仲良しの利用者がおしゃべりを楽しんでいる。壁やガラスには季節の貼り絵や書道が飾られ、時にはカラオケや手作りのボーリング大会で楽しみ、居心地よく過ごせる工夫がみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを3個様々な用途を考え配置転換して 車椅子の方も1日に1度は座って頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様それぞれ、使い慣れた思いでの家具などお持ち頂いている	居室には1間巾サイズのクローゼット、ベッド、バイタルセンサー(脈拍、体温、血圧)が取り付けられ、1パットに記録され職員は手元で確認している。利用者はポータブルトイレ、タンス、テーブル、椅子等思い思いに持ち込んで居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室扉には表札がありわかりやすい目印を随所にはって出来る事、わかる事を支援している		